（別　紙）　　作成日　令和　2年　3月　18日

1　自己評価及び外部評価票

【　事業所概要（事業所記入）　】

事業所番号	2070501065		
法人名	特定非営利活動法人　心		
事業所名	グループホーム　こころ		
所在地	長野県飯田市松尾上溝6301番地1		
自己評価作成日	令和2年1月14日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2070501065-

【　評価機関概要（評価機関記入）　】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉総合評価機構　長野県事務所
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和2年1月23日

【　事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）　】

二年前に改修工事を行い、すべての居住スペースを1階にし、また、外の明るさを採り入れ食堂も広げました。入居者の皆さんが快適に過ごせるよう配慮し、また、職員の目が行き届き、安全に生活ができるように整備してきました。そして、日々の出来事が分かるように新聞等を音読し、社会で何が起きているかを皆さんと一緒に共有したり、体を動かしたり歌を唄ったりして、めりはりのある生活が日々送れるように努めています。季節折々の花見や食事会など外出も楽しみの一つとなるよう努力しています。

【　外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）　】

利用者や家族のニーズに応えて改修工事を行い、2階の3居室を1階に移動し、車椅子での移動がスムーズになるように玄関・廊下・ダイニングキッチンを拡充したたことにより、明るく機能的なグループホームに生まれ変わってきている。また、同一法人で近隣のサービス付き高齢者向け住宅との連携を通して地域のニーズに十分応えているグループホームになってきている。

また、いつもとは変わらぬ職員の利用者への心への働きかけはごく自然で家庭的であり、多くの利用者が「終の棲家」として希望している。このようなグループホームの発展と、グループホームへの信頼はゆるぎないものになってきている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名（　　）

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の２/３くらいの
			③利用者の１/３くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	①毎日ある
			②数日に１回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の２/３くらいと
			③家族の１/３くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の２/３くらいが
			③職員の１/３くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の２/３くらいが
			③家族等の１/３くらいが
			④ほとんどできていない

（別　紙）

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況（太枠囲み部分）」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につくところに理念を掲げ、職員一人ひとりが確認して、理念に沿った生活が送れるように努力している。	「共に笑い・共に楽しみ・共に悲しみ・共に生きる」を理念に、利用者の心への働きかけを基本方針として実践につなげている。利用者の話はよく聞いて否定しない。また、親を見ているように接し、～されると嬉しい、～したいという気持ちになるように職員は利用者に働きかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が気兼ねなく寄っていけるように、日々声かけなどをして交流を増やしている。	近所の方や畑を借りている家・元の利用者の家族等がグループホームに立ち寄って、お茶を飲んだり、お風呂に入ったりしている。また、近隣の同一法人サービス付き高齢者向け住宅に出かけ、ボランティアの方々と交流を楽しんでいる。自治会に入っていないが、地域との交流が盛んになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習等を受け入れ、その中で認知症に対する支援方法等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の行事や入居者の方々の状態、状況を伝えている。運営推進会議のメンバーから、アドバイスや助言をいただき、それを職員と共有してサービス向上につなげている。	2か月に1回、地域包括支援センターの職員や地域の民生委員、在宅訪問マッサージの職員等の参加を得て、運営推進会議を開いている。グループホームの行事や利用者の状態などの話題が中心であるが、和やかな雰囲気の中で話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会等を通して情報を共有し、協力体制を築いている。	事業所連絡会等には参加して市の担当者との連絡を密に取り、協力体制を築いている。また、運営推進会議には、包括支援センターの職員の常に参加を要請し、アドバイスや助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在拘束をしない介護ができるよう努めている。万一、拘束が必要な場合が出てくることがあれば、家族と相談の上、必ず同意書をとるようにしている。	現在身体拘束の事例はない。帰宅願望の利用者がいて遠くまで外出しても、一緒に気分転換のつもりでついて行き、納得して戻ってきてもらうようにしている。また、虐待防止等の研修会にも参加して徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会などがあれば参加し、その情報を職員会議などで共有し、注意を喚起し、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人についての研修会があれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族との面談の中で十分に説明をさせていただいている。必要とあれば再度話し合いを持ったりして、理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が現場にいることが多くあり、面会などの時に話を聞く機会を設け、家族からの意見等を運営に反映できるように努めている。	家族会はないが、管理者を中心として利用者や家族の意見などがきめ細かく反映できるようにしている。家族から面会簿を玄関に置いてほしいと言う要望や、利用者と新聞を音読する中での話を通して、見に行きたいと言う希望などには早速対応するようにしてきている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場に常に入って、職員から意見提案を聞いている。運営に反映できるように、理事長に進言もしている。	毎月第2火曜日に職員会議を行い、その後ケア会議を開いている。最近では、帰宅願望の強い利用者の対応について積極的な話し合いがあった。職員は、朝・夕の申し送りや、メモによる伝達を通して共通理解をしている。また、職員の就業関係の要望については、アンケート方式の自己評価の折に、聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートによる自己評価をしてもらい、さらなる向上心を持って勤務ができるように就業環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が自己研鑽ができるように、研修会積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム連絡会など研修会があれば参加し、サービス向上につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	それまでの生活状況を踏まえて、入居者一人ひとりの要望などをしっかり聞き入れ、快適な生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをしっかり聞き入れ、入所後不安が残らないよう、関係づくりに配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の負担が軽減できるように、他のサービスも踏まえ、細かい助言ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常日頃、苦楽を分かち合えることに重きをおき、共に楽しく暮らせるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いをしっかり理解し、一緒になって支えていけるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々といつでも触れ合えるように支援を行っている。	利用者と馴染みの友人や知人などが、訪問に来てくれることもあるが、電話をかけあったり、手紙を交換し合ったりすることもあるので、できる限りの手助けをしている。家族や親戚等と一緒に外食などすることもあるので、続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の間に職員が入り、お互いがお互いを思いやりる気持ちが持てるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された家族でも、必要に応じて相談にのったり、お茶飲み場として来所していただいたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に沿えるように本人と話し合いをしたりして、意向を把握するように努めている。	利用者の様子を見て、「歩きたいという希望があったが、転倒の危険があり危ない」と判断した時には、利用者の希望が少しでもかなえられるように、車椅子の利用を勧めたりして、意向の把握に努めている。利用者の介護の記録を「個別ファイル」にまとめ、共通理解を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や以前の介護支援専門員等から入居される方の情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を一人ひとりの「個別ファイル」に記載し、それを職員で共有し、個々の状態把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を「個別ファイル」に記載し、それを職員会議などにおいて話し合い、現状に即した計画を作成している。	「個別ファイル」の介護の記録に評価の欄を設け、利用者の様子をモニタリングし、職員会議で話し合い、介護計画を作成している。担当者会議では、関係職員等が参加して、利用者の現状に即した介護計画になるように見直し、家族と話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、午前・午後・夜間と分けて記入できるようにし、申し送り後でも業務日誌で情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生まれるニーズに、柔軟にそして臨機応変に対応できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の訪問等による娯楽を楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月一度の往診や緊急時の受診ができるようにしている。体調に変化があった時はかかりつけ医に連絡をとるなどし連携を密にしている。	かかりつけ医の月１回の往診があり、緊急時には強力医の受診ができるようになっている。また、歯科医の往診もできるようになっている。職員の准看護師は、週2回の訪問看護師と連携して看護を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に準看護師がおり、連携をとりながら適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の負担を軽減するため、早期退院ができるようソーシャルワーカーと相談を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、また、終末期近くなる前より家族と話し合いを持ち、家族が納得できる形で看取りができるように支援を行っている。	グループホームを開所して以来、多くの利用者の看取りをしてきたが、この2年間でも2人の看取りをしてきている。家族ともよく話し合い、通夜・葬儀などにも参加し弔辞を送るなど、手厚い対応をしてきている。また、同一法人内のサービス付き高齢者向け住宅と連携し、利用者の重度化した場合の対応についての支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で初期対応の仕方などを綿密に話し合い、職員一人ひとりが理解するよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時等における緊急通報装置の使用方法や、災害発生時の行動の仕方等を消防署指導のもと訓練を行っている。	9月に通報・避難訓練を実施した。今後、2回目の避難訓練を実施する予定である。ハザードマップを利用して、すぐそばを流れる用水路の増水についても、松川の増水についても対策を検討していく予定である。	増水・洪水対策を検討して、避難訓練をしていきたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	先輩を敬い敬意を持って接するよう心掛けている。	利用者を先輩として、心に働きかける対応に心掛けている。例えば、呼びかけは「ちゃん」付けから「さん」付に変更したり、繰り返す言葉にじっと耳を傾けうなずいたり、ある時は逆説的に声かけて利用者の言動を促したりして、ごく自然に接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どちらかにしますか」など選択肢を作り、本人に選んでいただけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、自分らしく生活していただけるよう、入居者の声に耳を傾け支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択肢を作ったり、また、必要な方であれば居室内に鏡台を設置したりして、身だしなみを整えることができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器の片付け等、一人ひとりに応じて手伝っていただいたりしている。また、アレルギーや禁止食物を把握し、安全な食事が提供できるように心掛けている。	冷蔵庫に保管している食材を中心に、朝は味噌汁・和え物・卵焼きなど手軽な献立にして、昼や晩には利用者の好みなどを聞いた豊かな献立を立てている。また、利用者一人ひとりに合わせて、おかゆやきざみ食にしたり、別メニューにしたりしている。利用者はそれぞれ分担をして、楽しく会食できている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、個々にあった食事を提供できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった口腔ケアができるように支援している。また、必要があれば歯科医と連携して口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄力をしっかり把握し、一人ひとりにあった排泄介助ができるように支援している	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの状態に応じて支援している。重度の利用者には、便器の前に立ったり、ズボンを上げ下げしたり、お尻を拭いたりする時も支援を続けてしている。また、パットを大きめにしたり、摘便や薬で調節することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人とりに応じて排泄が分かるようチェック用紙で管理し、また、医療とも連携をして便秘などならないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみの一つなるよう、入りたい時に入れるように支援している。	入浴表を利用して、３日おき１日３人程度、利用者の希望の時間に入浴を楽しむことができるように支援している。重度の利用者には、２人介助で安全に留意して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人にあった場所や時間を考慮したりして、休息がとれるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに服用している薬が分かるよう、「個別ファイル」に挟み、職員が閲覧でき、十分把握することができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の趣味など把握し、歌を唄ったり、塗り絵をしたりする等個別に合わせ、グループホーム全体でできるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品などの買い物の付き添いなどをお願いしたり、帰宅願望がある時は、戸外を散歩したりする等、工夫している。	普段は、近くのホームセンターに買い物に行ったり、近所を散歩したりしている。また、ベランダのベンチで日光浴をしたり、天気の良くない日は利用者皆で体操をしたり、新聞を読んだりして気分転換を図っている。また、四季折々の花や紅葉を見に出かけたり、外食に出かけたりして、外出する機会を楽しみにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な方にはお金を持っていただいたりして、自己管理をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡をとりたい方には電話を貸したり、友人から手紙があった時は、グループホームでの生活が分かるよう写真付きの手紙を添えたりする等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の花や、塗り絵を飾ったりして目で楽しめる空間を作るように工夫している。	玄関・廊下が広くなり、また、ダイニングキッチンも広くなり、車椅子で行き来することが楽になり、強要空間が明るくなった。月ごとに利用者の写真や塗り絵作品などを貼り替えている。それを見ながら、利用者・家族・職員や来訪者との話が弾んでくる、と語っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が話せるよう、席の位置を考慮する等、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台や、タンスまた、テーブルなど持ち込んでいただき、本人が快適に過ごせるように支援している。	利用者それぞれの居室には、家族と相談して持ち込んだ家具等が好みに合わせて配置されている。また、写真や絵などの趣味の掲示もあって、心地よく過ごせるようになっている。帰宅願望の利用者などがいる居室には、フットコールや呼び鈴などを備え、安全性に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のレベルを維持していくため、歩行器など個々の状態、状況にあわせて使用し、自立した生活が送れるように支援している。		